

■コメント

1. 手足口病

定点当たり5.04人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。

体調管理に注意するとともに、引き続き手洗いの励行や排泄物の適切な処理を心がけるなど、感染予防を徹底しましょう。

2. 流行性耳下腺炎

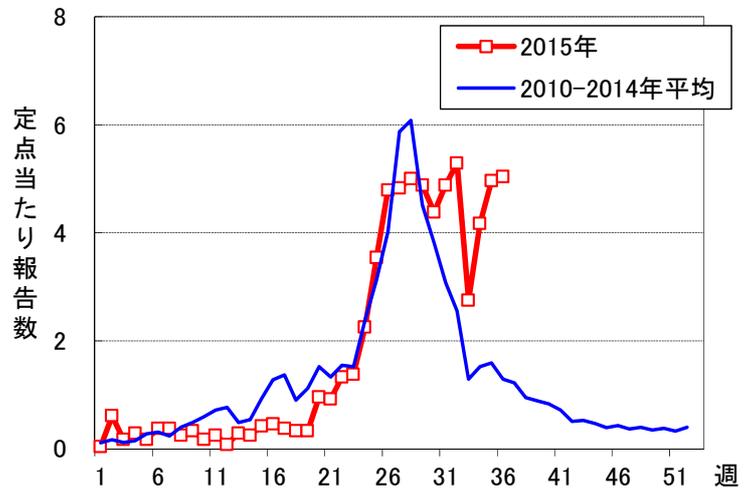
定点当たり1.92人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。

近年、広島市では2005年、2010年頃を中心に流行しました。流行の周期から推測すると、さらに増加する可能性があり、今後の動向に注意が必要です。

3. 腸管出血性大腸菌感染症

1件の報告があり、今年の累計は14件となりました。例年、10月頃までは多い傾向にありますので、注意が必要です。(次頁参照)

手足口病の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	1	0.03	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	46	1.92	0.49	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.37		眼科	RSウイルス感染症	22	0.92	0.88	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	1.54	0.75		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	74	3.08	3.28		眼科	流行性角結膜炎	11	1.38	0.70	
	水痘	9	0.38	0.75		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	121	5.04	1.29			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.09	
	伝染性紅斑	6	0.25	0.11			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29	
	突発性発しん	13	0.54	0.54			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	16	0.67	0.61							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

(※) インフルエンザのシーズンは、第36週～翌年第35週です。第36週より、2015/16シーズンとなります。

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	103	女性(10歳未満)・1人、女性(40歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	14	女性(10歳未満)・O157
5	ウイルス性肝炎	1	6	男性(60歳代)・B型
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	16	女性(80歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告地	週次	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
			報告数	報告地	週次																		
報告数	広島市	第32週	1	18	44	95	10	127	14	11	1	45	41	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-
		第33週	-	8	23	51	6	66	3	9	-	27	26	1	-	9	-	2	3	-	-	-	-
		第34週	-	11	24	74	3	100	12	8	1	36	54	4	-	16	-	1	6	-	-	-	-
		第35週	-	8	29	96	5	114	6	12	1	35	34	13	-	14	-	-	2	-	-	-	-
		第36週	1	4	37	74	9	121	6	13	-	16	46	22	-	11	-	1	1	-	-	-	-
		定点当たり	広島市	第32週	0.03	0.75	1.83	3.96	0.42	5.29	0.58	0.46	0.04	1.88	1.71	-	-	0.50	-	0.43	-	-	-
第33週	-			0.33	0.96	2.13	0.25	2.75	0.13	0.38	-	1.13	1.08	0.04	-	1.13	-	0.29	0.43	-	-	-	-
第34週	-			0.46	1.00	3.08	0.13	4.17	0.50	0.33	0.04	1.50	2.25	0.17	-	2.29	-	0.14	0.86	-	-	-	-
第35週	-			0.35	1.26	4.17	0.22	4.96	0.26	0.52	0.04	1.52	1.48	0.57	-	1.75	-	-	0.29	-	-	-	-
第36週	0.03			0.17	1.54	3.08	0.38	5.04	0.25	0.54	-	0.67	1.92	0.92	-	1.38	-	0.14	0.14	-	-	-	-
全国	第34週			0.05	0.43	1.16	3.13	0.26	5.64	0.52	0.56	0.02	1.47	0.53	0.36	0.01	1.15	0.03	0.08	0.50	0.01	0.01	0.01
	第35週	0.06	0.38	1.24	3.07	0.24	5.66	0.54	0.61	0.02	1.45	0.51	0.54	0.03	1.09	0.03	0.07	0.47	0.03	0.03	0.01	0.01	

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(38.9) 咽頭炎	0	男	2015/07/18	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA9型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.6) 発疹 上気道炎 肝機能障害	5	女	2015/07/29	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.8) 上気道炎 犬吠様咳嗽	8	男	2015/08/23	咽頭拭い液	肺炎マイコプラズマ
その他の発疹性疾患	発熱(39.0) 丘疹	0	女	2015/07/19	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA9型
その他の疾患	発熱(38.0)	0	男	2015/07/09	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスB4型
その他の疾患	発熱(39.1)	0	女	2015/07/21	糞便	エコーウイルス18型
その他の疾患	発熱(38.5)	0	男	2015/07/16	咽頭拭い液	エコーウイルス18型
その他の疾患	発熱(39.3)	0	男	2015/07/22	咽頭拭い液	エコーウイルス18型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

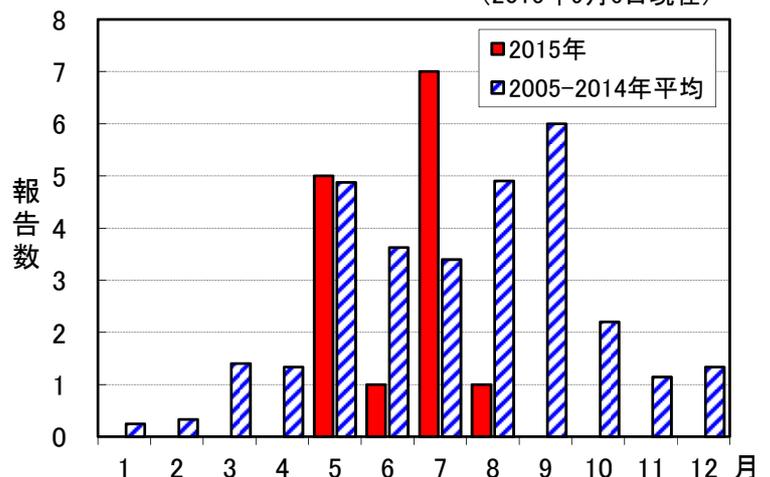
腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、わずか数十個でも感染すると考えられています。汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。症状は、下痢・腹痛・血便などで、特に乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

- トイレの後、調理の前、食事の前には手洗いを励行しましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。
- オムツの取り扱いには十分注意しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2015年9月6日現在)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2015年第36週(8月31日～9月6日)